



ふれあい



新春の書（腎臓内科医長 吉川和寛）

【基本理念】

高度急性期医療を推進する県民に信頼される親切であたたかい病院

- 目次 -

| | |
|------------------------------|--------------------|
| 年頭のごあいさつ | 院長 望月泉 ……2 |
| 医療講演会感想記 | ペインクリニック科長 佐藤朗 ……3 |
| 平成 26 年度産科医療功労者厚生労働大臣表彰を受賞して | 鈴木博 ……4 |
| 沖縄県立中部病院の訪問報告 | 事務局長 村田幸治 ……4 |
| 健康講座より 失神ってなに？ | 神経内科医長 小田桃世 ……5 |
| 健康講座より いまの肺が一番元気 | 中央検査部次長 守義明 ……5 |
| ヴィオラ・ダ・ガンパ コンサート | 麻酔科医長 吉田ひろ子 ……6 |
| ひまわり図書室のリニューアルオープンについて | ボランティア 千葉茂 ……6 |
| 医療クラークのご紹介 | 医療クラーク 阿部真奈美 ……7 |
| 新生児集中ケア認定看護師の紹介 | 4階西病棟 吉崎純子 ……7 |
| 第 5 2 回医学貢献者慰霊式を挙げて | 総務課長 佐藤明 ……8 |
| 編集後記 | 広報委員長 島岡理 ……8 |

【行動指針】

- 1 良質な医療の提供
- 2 優れた医療人の育成
- 3 地域医療機関への診療支援
- 4 救急医療の充実
- 5 災害医療の体制整備
- 6 臨床研修体制の充実
- 7 健全で効率的な病院経営

※ 広報誌「ふれあい」は1,700部を作成し、県民、連携医療機関、行政機関等に岩手県立中央病院の情報をお届けしています。

2015年の年頭に当たって

院長 望月 泉

2015年の年頭にあたり、一言ごあいさつ申し上げます。昨年の仕事は
 じめ式でお話ししましたやるべきことは院内ハード面、ソフト面の整備
 でした。築 27 年を経過して、外来をはじめあらゆるスペースが手狭に
 なり、より良い機能を発揮できる病院となれるよう腎臓内科を2階に移
 転し腎センターとして整備しました。利用者が少なかった患者図書室の
 1階移転と医学図書室の整備、9階に人間ドック、検診部門をまとめ院
 内のWi-Fi 工事などを進めました。朝8時から採血ができ、その日のう
 ちに結果の出る外来体制は、患者さんに好評です。今年は患者さんにさらに快適な療養環境を提供でき
 るよう、トイレを和式から洋式へ改装などのアメニティ整備が急がれます。同時に職員が働きやすい環
 境整備も必須で、この病院に勤務してよかった、楽しめたと思える病院にしていかなければと決意を新
 たにしております。



昨年 11 月、厚労省の特定共同指導を受けました。日頃から療養担当規則を理解、遵守して保険診療
 を粛々で行うことの大切さを教えられました。12月衆議院解散・総選挙が行われ、政権与党の大勝利に
 終わりました。政府は経済再生と財政健全化を掲げ、「2015年度予算編成の基本方針」で、医療費をは
 じめ、社会保障経費について、「自然増も含め、聖域なく見直し、効率化・適正化を図る」方針を打ち
 出しました。社会保障は社会的共通資本で医療を経済に合わせるのではなく、経済を医療に合わせな
 ければと9月に亡くなられた東大名誉教授宇沢弘文先生は述べていました。医療に市場原理主義はなじ
 みません。医療費抑制を目的とした医療提供体制の改革で在宅医療を推進しようとしてもうまくいきま
 せん。医療を受ける側の意識すなわち死生観、看取りに対する意識改革が必要です。延命措置を施すか
 否かの判断を迫られたときにどうするのか。事前に本人が判断し、家族で話し合っておく必要がありま
 す。人間は生まれてそして必ず最期があります。今や病院で最期を迎えるのが一般的になってしまいま
 したが、私が小学校に入学した 1960 年代はじめは、多くの人々が自宅で家族に見守られながら穏やか
 な死を迎えました。たしかに在宅は家族の負担が大きく、一人暮らしでさまざまなサービスが必要とな
 れば費用もかかります。地域ぐるみで助け合い、医療や介護がかかわり、行政がサポートし、社会を維
 持していく必要があります。これが求められている地域包括ケアのあるべき姿です。本年2月15日(日)
 14時からプラザおでつで、当院主催の市民健康講座を行います。講演タイトルは「地域包括ケア一住
 み慣れた地域で最後まで自分らしい暮らしをおくるために一」で、私が講演します。とくに事前申し込
 みは必要なく誰でも参加できますので、是非お出でください。



今年は9月26日(土)に第14回日本医療マネジメント学会東北連合会学術集会・第6回岩手県支部
 学術集会を盛岡で開催します。テーマは「医療チームからチーム医療へ—
 多職種連携の構築」としました。診療報酬をいただくための医療チームで
 はなく、真に患者さん中心のチーム医療を構築しなければなりません。多
 職種連携、コミュニケーションがきわめて大事になります。4年後には、
 岩手医科大学が矢巾に移転します。盛岡医療圏の救急医療体制、当院のあ
 るべき姿を検討する必要があります。広く意見を求め、より良い医療体制
 を構築していきたいと思っております。

以上、年頭にあたりのごあいさつとさせていただきます。

医療講演会感想記

『終末期に起こる諸現象～「看取り先生の遺言」を引き継いで～』 講師 山室 誠先生

ペインクリニック科長 佐藤 朗

そう言われれば、人が亡くなる頃に正に不思議な現象が起こることがあるとは聞いたことがありますが、その程度のイメージしかありませんでした。そして更には、鋭い視点で痛みと戦って来られた、あの山室先生がこの事象の意義付けに腐心されていることに、先ずは驚きでした。

果たして、患者さんと家族、私たち医療者が願っている「穏やかに、穏やかな、」とはどういうことであったのか、深く考える機会を頂きました。

山室先生は日本におけるガンの痛み治療の先鋒として私たちを導いてくださいました。神経ブロックを確立させ、そしてモルヒネを主体としたWHO方式の実践的な使用方法が普及したのは、山室先生の教科書と指導によるものと断言できます。

山室先生は宮城がんセンターや東北大学で緩和医療に携わっていましたが、この震災でお付き合いが始まった方々によって、生死についての事柄に対峙する必要性を感じさせられたとのことでした。

終末期に起こる諸現象、中でも<お迎え>として知られている現象についての的を絞って講演くださいました。

普段は起こらないが、終末期に生じる事象の概念付けは P.Fenwick 等によるそうです。一つ目は臨終時視象、不思議なものを見る体験。二つ目は離脱現象、魂みたいなものが体から抜けていくような体験。三つ目が臨終時偶発、一時的な症状の寛解や意識が覚醒すること。お迎え現象は、臨終時視象に当てはまります。患者さんと親しかった死者が穏やかに暖かく現れることです。これらの現象を、宗教・国・時代の違いでどの様にとらえられているかも考察されておりました。

多くの事例を紹介していただきましたが、なんとキューパー・ロスも父親が亡くなる時にお迎え現象を体験していたそうです。それは見当識の障害がない状況での現象でしたし、お迎え現象を医療のケアでの課題として提起されるようになりました。

山室先生が宮城がんセンター時代に一緒に緩和医療に取り組んできた故岡部先生等による在宅での調査では 39～42%もの多くの方にお迎え現象があったとのことです。

医学的意義は、我々が備えてる肉体的苦痛への自己防御機能と同じように、死への不安や恐怖を和らげる為の機能ではないかと山室先生は説いておられます。つまり死への不安や恐怖の本質である **Spiritual pain** に対応するのが **Spiritual care** ですが、お迎え現象は **Spirituality** 機能が順調に活動した結果生じる自発的な **Spiritual care** の一種、**Self-spiritual-care** であろうとのことです。

山室先生等の調査では、適切なケアが行われるとお迎え現象が出易い、とのことでした。適切なケアとは、に議論の止まないところでしょうが、例えば終末期の鎮静は、お迎え現象だけではなく終末期に生じる諸現象の可能性を奪う危険性があること。患者さんのためではなく、看取る家族や医療者にとっての安らかな終末期に陥りかねないこと。が山室先生のお話からも強く裏付けられました。



人生を全うするとは、そこからの相応しい旅立ちがあってこそなのでしょう。私たちには、患者さんにとって有利な状況であることを認める援助、それは医療者側の価値観からは理不尽と見えたとしても、**Advantage** な **support** とでも言うのでしょうか、が求められると理解しました。

平成26年度産科医療功労者厚生労働大臣表彰を受賞して

参与 産婦人科 鈴木 博

この度、岩手県医師会、岩手県産婦人科医会の会長はじめ理事役員の先生方のご推薦をいただき、岩手県知事から厚生労働省へ上申され、受賞することになりました。しかし厚生労働省選考委員会に履歴書等提出し正式に受理されるまでの約3週間は私にとって、正に緊張の毎日でした。例えば交通違反など不注意な罰則等を受けることのないよう、いつも以上に注意しました。それだけに、厚生労働大臣より表彰状と、記念品としてヒポクラテスの胸像の授与の瞬間は身に余る光栄でありました。振り返ってみますと、産婦人科医としての41年間で私自身が担当した分娩は10,000例を超え、そのうち帝王切開等の異常分娩は3,000例位と思います。そんな中、ここ数年前からですが、なんと当科実習に来た研修医のうちの数名が“先生、私の母子手帳に先生の名前が書いてありました、中央病院で生まれました”とのこと、これにはびっくりするやら驚くやらまさに冷や汗ものでした、が残念ながら



彼らの中から産婦人科医だけはまだ育っていません。今後はぜひ母子手帳に私のサインのある研修医を産婦人科医として育てたいとの夢を見ている。さらにまた、女性の社会進出が叫ばれている昨今、出産だけでなく女性のライフスタイルに沿ったトータルケアが求められています。常にこのことを考慮にいれながら、志のある産婦人科医を一人でも多く育てていきたいと思っています。最後になりますが、私を今日まで支えて下さった中央病院の皆様へ改めて感謝申し上げますとともに、これからも体力の続く限り、産婦人科医療に精進する所存であります。今後とも関係各位の皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



沖縄県立中部病院の訪問報告

参事兼事務局長 村田 幸治

数年に一度と言われる爆弾低気圧による悪天候の最中、当院と沖縄県立中部病院(以下「中部病院」と)の友好病院締結(平成25年3月28日)に基づく交流事業として、中部病院からの講師派遣要請により平成26年12月17日から3日間の日程で、野崎英二副院長を団長として館澤文男医事経営課長と筆者の3名が中部病院を訪問しました。初日は、病院見学の後に野崎副院長による「3.11から学ぶもの」と題する災害対応に関する講演会が開催され、中部病院の松本廣嗣院長をはじめ多くの職員が参加しました。

2日目は、朝8時半からの幹部職員による朝ミーティングに参加し、経営指標の報告と病院理念の唱和に立ち会いました。その後、館澤課長による特定共同指導への対応についての講演の後は、3グループに分かれて、研修医プログラムや岩手県医療局の紹介、さらには診療報酬請求と査定対策など、6のテーマ別に夕方まで研修会の講師を務めてきました。3日目は、県立の南部医療センターや民間の医療機関を巡り、沖縄県内の医療の状況について説明を受けてきました。今回の訪問で、中部病院は同じ県立病院でありながら、組織や職員の採用条件等の違いによって、職員相互の信頼関係やモチベーションに当院との大きな違いを感じたものの、当院を目標に多くのことを学び取り今後の病院運営や業務改善に取り組む強い姿勢を感じました。今後は、双方の栄養管理室による郷土料理のレシピ交換が行われ、友好病院締結の日に沖縄料理の提供が予定されているほか、中部病院の放射線技師の受入研修も計画されており、更なる交流の発展を期待されます。



健康講座より

第37回健康講座(平成26年10月5日(日))「失神 原因と治療～最近の話題から～」と第38回健康講座(平成26年11月3日(祝・月))「いまの肺が一番元気!」より抜粋の内容です。

○『失神ってなに?』

神経内科医長 小田 桃世

失神とは、一過性に脳全体に血が回らなくなり、姿勢を保てなくなることをいいます。急激に発症し、短時間で自然に完全回復することが特徴です。診察時には完全に回復しているため診断を付けづらく、原因不明とされる症例が2割から4割となります。しかし失神の原因によっては突然死に繋がるため、原因を突き止め適切な対応をとる必要があります。

失神は心臓が原因か、原因でないかの2つに大別されます。

心臓が原因の失神は全体の約15%を占め、原因は不整脈(脈が遅い、速い)や構造異常(弁、心筋、血管)です。最近では体外式イベントレコーダーや植込み型ループレコーダー等、不整脈の有無を観察する検査が開発されています。

心臓が原因でない失神は全体の約75%を占めて、反射性失神と起立性低血圧の2つに大別されます。反射性失神は原因として迷走神経反射や特別な状況(飲酒、排尿が多い)があります。起立性低血圧(立ちくらみ)は薬剤が原因のことが多いですが中には老化に伴う基礎疾患が原因のこともあります。対応としては長時間の立位や脱水を避ける等の予防を行い、前兆が出現したときには転倒しないよう、横になるよう指導します。

なお一時的に意識がなくなる疾患は失神だけとは限らず、てんかん、精神疾患、低血糖、中毒等の疾患も考えられます。

何度も繰り返すときには、怪我や事故を防ぐためにも早めに医療機関を受診しましょう。



○いまの肺が一番元気!

中央検査部次長 守 義明

ヒトの臓器は老いとともにその機能が低下しますが、環境によっては機能低下を遅らせたり維持できる臓器があります。筋肉は鍛えることで年齢に見合わない活動能力が維持されますが、肺はどうでしょうか?肺を鍛える?いやいや呼吸筋は鍛えられても肺自体の機能は鍛えることはできません。じゃあどうすればいいのでしょうか。PM2.5などの粉塵吸入暴露は地球上では完全には避けることのできないものですが身近に回避可能なものとしてはやはりタバコの煙でしょう。すなわちタバコの煙を出さない、吸わない、吸わせない(副流煙)環境が大事だと思います。一番はキレイな空気を吸って、風邪などひかずに生活する事が大事であると考えます。



今生きているこの瞬間が肺機能のピークであるという「いまの肺が一番元気」と銘打って今回3人のスタッフからレクチャーを行っていただきました。宮本先生からは「気管支喘息ってよく聞くけどどんな病気?」という題で、喘息は治らない病気であるためいかにキチンとコントロールするかが大事であると強調され、アニメを含んだわかりやすいスライドが印象的でした。守口先生からは「タバコにまつわるエトセトラ」として悪の枢軸タバコの実害による怖い肺癌や最近やたらと耳にするけど分かりにくい慢性閉塞性肺疾患(COPD、要はタバコ病なんですがね)について話され、また空気清浄機の落とし穴など目から鱗のトリビアのお話が聞けました。トリは佐藤先生から「肺炎の予防って可能な?」という題で、高齢になればなるほど肺炎は癌に次いで生死にかかわる重大な病気であること、その予防策として口腔内を清潔に保つことが大事でまた今年接種時支援が始まった肺炎球菌ワクチン(肺炎の原因となるバイ菌の一つでこの菌による肺炎をある程度ブロックしますが全ての肺炎予防ワクチンではありません。)の接種について話されました。多くの質問がなされ会は盛況のうちに終わりました。

それでは皆さん、きれいな空気でいつまでも健康な肺を維持しましょう。

☆次回開催の健康講座のお知らせ☆

「地域包括ケア」ってなあに?

～あなたの地域のこれからの医療～

【日時】2月15日(日)14時～16時30分

【場所】プラザおでって

※入場無料・事前申込不要

ヴィオラ・ダ・ガンバ コンサート

麻酔科医長 吉田 ひろ子

ヴィオラ・ダ・ガンバをご存知ですか？ルネッサンスからバロック時代の古楽器で、言葉で形容し難い、何とも深みと暖かみのある燻し銀の音色を奏でます。

去る10月30日、1階正面玄関待合ホールにて、プロの演奏家・ヴィオール奏者一桜井茂さん、チェンバロ奏者一剣持清之さんによるボランティアコンサートを開催しました。このコンサートは、いくつかのご縁と、沢山の方々の御協力により実現しました。以前から、桜井さんの高校時代の同級生である私の友人を通じ、桜井さんがいつか盛岡の病院でボランティアコ

ンサートをしたいと、伺っていました。そんなある日、關副院長とクラシック音楽についてお話する機会があり、駄目元でボランティアコンサートについて御相談してみました。さすが關先生、さっそく総務課長の佐藤さんに連絡して下さい、佐藤さんからは、ふたつ返事でOKをいただき実現する運びとなりました。演奏会は、秋の夕暮れ時、沢山の方々と共に、まるで中世にタイムスリップしたような心地よいひとときとなりました。

私は、辛い時、哀しい時、幾度となく音楽に救われ、勇気づけられました。このコンサートを聴いて下さった方々にとって少しでも癒しになっていただければ幸いです。

今回御協力いただいた沢山の方々に心より深く感謝申し上げます。微力な私に力を貸していただき、本当にありがとうございました。



医療情報プラザ「ひまわり図書室」のリニューアルオープンについて

ボランティアひまわり 千葉 茂

平成16年7月に、患者さんやご家族、地域の皆さんを対象として開設されました。

すべて寄贈の図書約250冊を備え、図書室職員と連携しながら院内ボランティアが管理し、図書が不足の時は職員図書室の本も開放する、患者図書室としては類のない形で病院が企画しスタートしました。

3階の職員図書室の一角を仕切ったの運用で、部屋の形や広さ、来室経路の複雑さなどで、ご利用の皆さんには不便をお掛けしてきましたが、昨年10月6日、1階食堂前に移転しました。移転区域は多くの方が訪れる場所です。

来室経路の改善と共にスペースにも幾分余裕が出て、車椅子や点滴スタンドをご利用の患者さんも便利になりました。

皆さんが、病気や治療について理解を広げ、担当医師とより具体的な話し合いを進め行く手助けとして、平易な医療書や闘病記、さらには予防やケアに関する本をも揃えております。



図書は最新のものとは限りませんが、約750冊の図書と医療情報検索のパソコンも備え、入院患者さんとご家族には図書の貸出も行っています。

平常日の、午前10時から午後3時まで開放し、室内の整備や、お声を掛けて頂いた時には、図書を探すお手伝いをするなどの役割を担ったボランティアが常駐しています。

もとより、特定の資料をお勧めするわけではなく、利用者のプライバシー保護にも十分配慮して管理しております。どなたでもお気軽にご利用下さい。

医療クラークのご紹介

医療クラーク 阿部 真奈美

診察室で先生の隣にいる事務の制服を着ているあの人たち。看護師さんではなさそうだし、一体誰なのだろう？と疑問に思われている患者さんもいらっしゃると思います。

私たちは医師事務作業補助者（院内では「医療クラーク」と呼んでいます。）です。

この職種は、医師の負担軽減を目的に平成20年度の診療報酬改定で新設されたもので、その名のとおり、医師の指示の下、医師が行う事務的作業の補助をしています。主な業務内容は、診断書・紹介状などの書類作成補助、診察予約や検査オーダーの代行人力、検討会の準備、手術統計、学会資料の作成などです。

制度新設と同時の平成20年4月に導入し、当初10名からのスタートでしたが、平成26年12月時点では総勢51名の大所帯となり、院内30診療科毎に1～3名配置されています。

この仕事に就いた当初、医師や看護師さんたちが話している内容が解らず、カルテに書いてあることもちんぷんかんぷんで、突然異国にきてしまったうっかり留学生のような気分で落ち込んだこともありましたが、医師をはじめ院内スタッフに指導を受けながら、少しずつ自分たちがどんな役割を果たすべきなのかがつかめてきて、今ではこの仕事にやりがいを感じています。

患者さんの治療の他にも沢山の仕事を抱えていて非常に多忙な医師。私たちが事務的作業補助を積極的に進めることで、少しでも患者さんの治療に集中する時間を増やせるよう、日々努力しています。

医師のため、ひいては患者さんのため。つたない私たちですが、いつも笑顔でがんばります！！



新生児集中ケア認定看護師のご紹介

4階西病棟 吉崎 純子

新生児集中ケア認定看護師は全国で300人（H26年現在。岩手県内では4人）おります。ほとんどがNICUに所属していますが、私のようにNICU以外で活動している者も少数ですがいます。活動内容はNICUの認定看護師と変わりありません。少し早く生まれた赤ちゃんたちや病気を持って生まれた赤ちゃんの看護と、両親、特にお母さんへの看護を行うことで赤ちゃんが退院して家に帰ってから不安なく育児がスタートできるようにお手伝いしています。赤ちゃんたちの看護には個々の発達を助けるための技術が必要です。それを看護スタッフに指導していくのも大切な役割です。



岩手県内でNICUは岩手医大1か所ですので、あとは私が所属するベビー室のような小規模なところで少し早く生まれた赤ちゃんや病気を持って生まれた赤ちゃんを看護しているのが大半だと思います。体温管理一つとっても、生まれた週数や体重、赤ちゃん一人一人の状態によって大きく異なります。

私自身、13年前低出生体重児の三男を出産しました。時がたってもあの時のことは鮮明に思い出されます。同じような思いをされているご家族、特にお母さんのお気持ちに寄り添い、新しい命を迎えた家族の始まりを全力でサポートしたいと思います。

第52回医学貢献者慰霊式を挙げて

総務課長 佐藤 明

当院では、医学の発展および病気の原因究明などのため、ご遺族のご承認のもとに病理解剖を行っています。現在の医学は、CT、MRI、超音波診断装置など、画像診断技術の進歩によって、体中が手に取るように分かるようになりました。しかし、それでも解剖させていただき、直接得難い所見を学ばせていただくことにまさるものはありません。どんなに医学が進歩しても、解剖は医学の原点であります。

平成26年11月26日(水)午後3時から、当院4階大ホールにおきまして、病理解剖にご協力いただいた方のご遺族をお招きし、その崇高な御心により医学の進歩と人類への多大なる貢献をいただいたことに対して、深く感謝の念を捧げ、医学貢献者慰霊式を挙げてしました。

慰霊式では、平成25年10月から平成26年9月に亡くなられた患者の方を偲び、14名のご尊名奉読、参列者全員による30秒間の黙祷、望月院長による追悼の辞、参列者全員による献花、佐熊病理診断センター長による慰霊の辞が行われました。当日は寒い中、10遺族の方々がご参列くださいました。また、病院職員は約100名が参列しました。

亡くなられた患者の方々に謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



編集後記



新年明けましておめでとうございます。平成27年の今年は羊年。群れをなして行動するために、羊は家族の安泰や平和をもたらす縁起物とされるようです。宗教がらみの対立が深刻化しそうな国際情勢ですが、平和である事を祈るばかりです。さて、新年と言えば七草粥、皆さん食べられましたか？



七草粥

この、春の七草、昔々の中国で親孝行の息子に帝釈天が、八千年生きるという七草を混ぜた長寿の秘薬を教えた事が七草粥の由来という説もあります。最近では新年になると店頭並び身近になりました。これは、栽培方法が未確立であった田んぼのあぜ道ではよく見かける春の七草を、種の収穫から自家栽培しては何度となく失敗をしながらようやく収穫し、洗浄、切りそろえ、商品詰めなどごく短期間で一気にを行うための「七草研究会」の並々ならぬ努力の賜物のようです。正月限定である事が最も重要で、この、日本古来の食文化を守っていこうとする姿勢には頭が下がります。私たちも患者さんが希望を持って退院できる事をめざし、日々努力したいと思っております。本年もよろしくお願ひ申し上げます。(広報委員長 島岡理)



★おしらせ★

次回の健康講座

「地域包括ケア」ってなあに?

日時: 2月15日(日)14時から

場所: プラザおでつ

入場無料・事前申込み不要



ふれあいNo268 平成27年1月 発行

中央病院広報委員会

◆委員長 島岡理

村上晶彦 下長根敏昭

古舘美佳 福田耕二

米通由美子 増田晃

田沼睦 曾我美沙希

大久保忠吉 高橋和哉

荒田綾子 吉田奈穂子


岩手県立中央病院

〒020-0066 岩手県盛岡市上田1-4-1

電話 019-653-1151 Fax 019-653-2528

http://www5.pref.iwate.jp/~chuohp/



古紙パルプ配合率70%再生紙を使用

「ふれあい」はホームページでもご覧いただけます。